

会長就任のご挨拶



一般社団法人軽金属学会
会長 伊藤 吾朗

この度、金子 明 前会長の後を受け、平成29・30年度の会長を拝命致しました。身の引き締まる思いでいっぱいです。微力ではありますが、松田健二、穴見敏也両副会長をはじめ、理事の皆様と力を合わせ、軽金属学会の一層の発展に尽力する所存です。会員の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

さて本学会は、皆様ご承知のように、1951年に軽金属研究会として発足して以来、先人の並々ならぬ努力の結果、法人化・公益法人制度改革対応を経て、現在約130社の維持会員、2000名を超える会員の皆様に支えられ、65年余の長きに渡り、ゆるぎない地位を確保してきました。歴代会長の指揮の下に本学会の長所をさらに伸ばしつつ、短所を克服する活動が続けられ、発展を遂げて来ています。私の役目は、この発展の勢いを削ぐことなく、伸ばすべきところをさらに伸ばし、改善すべき点があれば打開するという当たり前のことに尽きると信じています。一昨年に理事をいったん退任し、本学会の直近の状況について完全に把握しているとはいえませんが、以下、私なりにやや具体的にまとめました。

2011年に里会長（当時）のもとで実施された、学会の強み・弱みの分析は手法として学会発展に極めて有効と考えます。強み・弱みの内容はその時代時代に合わせて変わりますが、本学会の強みとしては、①産官学のバランスが取れている点、②軽金属に特化した海外に例のない学会である点、などが挙げられると思います。①の産学官のバランスは、異なる視点をもつ研究者・技術者の情報交換の場として、今後ますます伸ばしていきたいと考えています。②の軽金属に特化した学会である点については、構造部材がマルチマテリアル化される時代の中で、分野を固守するあまり、最新の設計技術に対応できなくなることがないように注意を払いつつ、維持していきたいと考えます。

一方、金子前会長から引き継いだ課題のキーワードとして、ユーザー目線での講演大会の充実、ユーザー企業会員増強、グローバル化・国際化策検討、産側投稿増加、人材育成、などが挙げられます。

ユーザー企業対応は、素材系の学会に共通した課題ですが、すでに、春秋の講演大会でのセッション分類にもこれら課題を意識した工夫がなされるとともに、理事会、委員会にユーザー企業からも参画していただくことで進展が図られています。私の役目としては、これら施策の効果を検証しつつ、更なる改善・強化を図ることにあると認識しています。

グローバル化・国際化についても2022年のICAA（アルミニウム合金国際会議）の開催提案を準備しています。本学会のプレゼンス（①および②の強み）を世界にアピールするチャンスです。これまでの本学会の国際化対応策を継続したいと思います。

投稿論文数の減少は国内学協会の共通した悩みです。現時点で妙案はありませんが、編集委員長や産側編集委員の皆様とともに、知恵を絞って対応したいと思います。必ずや何らかの打開策があると信じています。

最後の人材育成については少子化時代の中で、人材育成検討WGが立ち上がり、初等・中等教育機関との連携も図られつつあります。また、他学会に比べると春秋の講演大会懇親会の参加者の平均年齢が極めて若いことが注目され、今後もこの特色を維持していきたいと思えます。ただ、広い意味で人材育成に関連する課題として、最近のキーワードでいえばダイバーシティ（数年前でいえば男女共同参画）が挙げられます。というのも、若年人口減少の打開策として女性研究者・技術者を会員に取り込む必要があるからです。多様な人材が集まれば、独創的な研究・革新的技術が生まれやすくなるのが当然です。多くの職場では女性管理職・役員の数値目標が示されています。学協会においても女性人材の確保が必要になる時代が来そうです。そのような中、日本機械学会で初の女性会長が誕生し、驚かされました。私の所属する茨城大学を始め、大体どこの大学でも工学部では、材料系の学科に比べて機械系の学科のほうが女子学生比率が低い傾向があります。学会の学生会員においても、材料系の学会の女子会員比率が機械系学会を上回っています。つまり、女子学生を増やすことも大事ですが、そういった人材を幹部となる人材へと育てることも大事だということです。平成19・20年度に理事の一員として、人材育成WG長を務めた経験も生かしつつ、状況の分析からスタートし、他学協会の活動も参考にしながら、積極的な対応策を模索したいと思います。

以上、雑駁に抱負らしきことを述べさせていただきましたが、軽金属学会には1977年の卒研究生時代から40年間もお世話になってきました。そのご恩を返すべく、これまでの経験を生かしつつ、皆様のご意見を取り入れ、繰り返しになりますが、本学会の更なる発展に微力ながら貢献する決意を固めました。会員の皆様には忌憚のないご意見をお寄せいただくとともに、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。